静岡県日中友好協議会

NEWS LETTER

No.123

2021. 7

視窓　秀麗な中国四大西湖　≪揚州瘦西湖≫

清代『冷廬雑識』に、「天下西湖三十又六、惟杭州最著（天下に36の西湖があり、杭州は最も有名である）」に記載され、『永楽大典』に、浙江に９カ所、広東、湖南、四川にそれぞれ４か所、福建、江西にそれぞれ３カ所、広東、永楽、湖北、河南、安徽、山東、陝西にそれぞれ１か所あり、その中で「揚州瘦西湖」、「恵州西湖」、「潁州西湖」、「杭州西湖」は四大西湖と記載されています。

今回取り上げる揚州瘦西湖は、江蘇省揚州市の北西郊外に位置する、六朝以来の景勝地で、1988年には国務院から「重要な歴史文化遺産と揚州園林の特色を備えた重点名勝区」に指定されました。敷地面積は2.5平方キロ、清の康熙帝と乾隆帝の時代からすでに湖上園林の群れを形成し、南方の秀麗さと北方の雄大さを兼ね備えていました。

「瘦西湖」の名は、「川のように細長く、杭州の西湖のように美しい」湖ということに由来します。両岸にはしだれ柳や桃の樹があり、窈窕たる雰囲気を漂わせ、周辺に徐園、小金山、五亭橋、白塔、二十四橋、万花園、双峰雲棧など名所や遺跡が点在し、その独特の風情が国内外に名を馳せています。

【特集】　～2021年度定期総会を開催～

友好提携40周年に向け、気運を盛り上げていく

５月２７日(木)、ホテルグランヒルズ静岡において、２０２１年度の本協議会定期総会を開催しました。昨年度は、コロナ禍の影響を受け、日中間の人的往来ができない中、オンラインでつなぎ、WEB会議などの方式で交流が行われたことの事業報告が行われました。今年度は、来年の静岡県浙江省友好提携40周年に向けて、気運を盛り上げいく、経済・人事・文化交流を推進していく事業計画、併せて役員人事など全議案が承認され、新たなスタートを切りました。

【2021年度事業計画・骨子】

１．人事文化交流事業

(1) 中国研修生の受入れ
(2) 静岡県日中友好協議会代表団派遣
(3) 静岡県下市町における交流促進
(4) 分野別の交流促進
(5) 各界各層間の交流促進
(6) 各友好訪中団の派遣及び派遣に対する協力
(7) 各友好訪日団の受入れ及び受入れに対する協力
(8) その他　必要に応じた事業への取り組みや協力を通じて、人事・文化交流を促進する。

２．産業・経済・技術交流事業

(1) 静岡県・浙江省経済交流促進機構への取組み
(2) 浙江省等技能実習生の受入れ
(3) セミナー等の開催
(4) 農業分野の交流促進
(5) 専門別交流の促進
(6) 関係機関との関係強化
(7) 静岡県日中経済協同組合への支援と貿易取引の促進
(8) その他　静岡県と中国との必要な産業・経済・技術交流事業に取組む。

３．情報交流事業

(1) 浙江省、湖北省及び陝西省をはじめとした中国の定期便就航先都市等との連絡・調査及び情報の提供
(2) 機関誌・情報ニュースの発行
(3) 日中交流に必要な各分野の資料・情報の収集、提供、普及

◎挨拶要旨（川 勝 平 太 会長）

本県の中国浙江省との交流は、1982年の両県省友好提携に始まり、来年には40周年を迎えます。併せて、日中国交正常化50周年の記念の年でもあります。

昨年から、新型コロナウイルス感染症の影響により、中国をはじめ、海外との人的往来ができない状況が続いていますが、このような状況においても、本県と浙江省は相互に支援物資を送り合うなど、交流を継続してきました。

中国との交流においては、 昨年６月と今年の１月の２回、孔鉉佑駐日中国大使とオンラインで面談し、今後も交流を深化していくことを確認しました。また、上海市にある県中国駐在員事務所が在中国日本大使館と協力し、生放送で本県の観光や食の魅力をＰＲしたり、本県企業のタミヤと協力して上海市でミニ四駆大会を開催したりするなど、オンラインや現地ネットワークを活用しながら、積極的に交流や発信を行いました。昨年、上海市で開催された中国国際輸入博覧会では、静岡県ブースに食品・水産・お菓子等の県内企業が出展し、浙江省の企業をはじめ、多くの企業と商談することができたと伺っております。

このように、長きにわたり良好な関係を維持できていることは、日中友好協議会が設立以来、浙江省をはじめとする中国との間で、友好交流の促進に、積極的に取り組んできた成果です。会員の皆様のご尽力に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

昨今の中国を巡る世界情勢は複雑化しており、様々な政治的な軋轢というものがありますが、静岡県は、例え政治的に難しいことがあっても、静岡県民と浙江省の省民の友情は決して変えないというスタンスで臨んでいます。

両県省の友好提携40周年に向けて、浙江省との「友好・互恵・互助」関係が、一層強固なものとなるよう努めていきますので、引き続き皆様方のご協力をお願いします。

◎来賓祝辞要旨

【静岡県議会】
議長　宮 沢 正 美

コロナウイルス感染症の感染拡大により、人的日中往来が難しい状況が続いておりますが、オンライン方式による新しい交流の形も生まれてきており、今後本県と浙江省との友好交流が、更に深まるものと大いに期待を寄せております。

県議会と致しましても、様々な機会を通して本県と浙江省、更には我が国と日中の信頼の絆が一層強固なものになりますよう、努めて参る所存でございますので、貴協議会の皆様方におかれましても、どうか今後両国のさらなる友好発展のためにまた両県省の交流の促進にご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

静岡県日中友好協議会の益々のご発展とご列席の皆さんのご健勝をご祈念申し上げまして私のお祝いの言葉とさせていただきます。

【県内市町自治体】
川根本町長　鈴 木 敏 夫

昨年度は、コロナウイルス感染症の影響で、大変な一年であったことが推察されます。

コロナ前は、富士山静岡空港も中国への定期直行便が就航し、県内各地で中国人観光客の姿を見るようになっておりましたが、今はいつ、その状況に回復するかはわからない状況です。これまで以上にSNSなど様々な方法を活用して、本県の魅力をアピールし、より多くの皆様に本県を訪問していただけるよう、各分野で協力し合って進めていくことが重要と考えております。

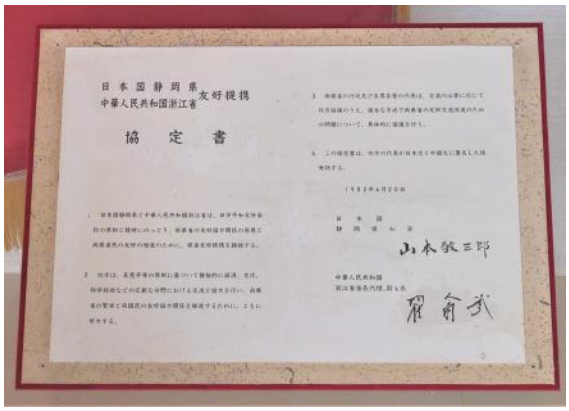
私たち地方自治を預かる者も、今後更に連携を密にし、子々孫々に渡って日中友好の実を上げていきたいと考えております。最後に、貴協会の益々のご活躍を期待し、更に発展されることをお祈り申し上げます。

交流往来　あの日あの時

静岡県－浙江省友好交流の黎明期1982年

月日を重ね、静岡県と浙江省は友好提携40周年、また日中国交正常化50周年を迎えます。

今日の両県省の関係になるまでに、築いてきた交流の足跡を振り返ると、「飲水不忘挖井人（水を飲むときには井戸を掘った人を忘れない。）」の言葉と共に、文豪・魯迅は「天下本没路，走的人多了，便変成了路。（地上にはもともと道はない。歩く人が多くなれば、それが道となるのだ。）」といった言葉で表せます。1982年、友好提携を記念して開催された『中国浙江省展覧会』のキャンペーンテーマ「**友好の花を咲かせよう**」、ポスターには「**静岡の茶とミカンのルーツを訪ねたら、８００年前の中国浙江省に出会った**」は、県民に浙江省に対して知ってもらう、親しみをもってもらい機会となり、今日も県民に深く刻まれています。



提携先の候補：山東省、安徽省、浙江省

地方間交流の相手はどこがふさわしいのか、可能性のある候補として、実は３つの省（山東省、安徽省、浙江省）があがりました。静岡県といえば、富士山、中国を代表する山は「泰山」、泰山は山東省にあります。山東省には海があって半島があり、これが１つ目の候補になりました。天下第一の名山「黄山」があり、当時お茶の生産量は中国第１位の安徽省が２つ目の候補です。もう少し人口、面積が小さい省ということで、浙江省です。当時、浙江省の人口は約3500万人でした。人口も面積も比較的コンパクトで、海岸もあって、ふさわしいのではないかということで、浙江省が３つ目の候補になりました。

1978年：鄧小平副首相が来日し、日中友好フィーバーが起き、日中平和友好条約も結ばれ、併せて中国では『四つの現代化（工業、農業、国防、科学技術）』の実現に向け、中央集権から地方への権限移譲を模索し始めた頃であり、こうした情勢は今後、国対国ばかりではなく、地方対地方の結びつきが一段と強まると考えられ、静岡県でも中国とこれから独自で交流を考えなければならないという新たな機運が一気に高まりました。

1979年：「中日友好の船（総勢600人）」が来日し、静岡県側は湖南団と安徽団を受入れ、また「静岡県青年の翼訪中団（総勢360人、チャータ便）」が中国を訪問し、県民全体の理解と友好のムードが醸成されました。

1980年：今日では、日中間ではいろいろなテーマでシンポジウムが行われていますが、当時、相手を知る、理解を深める手段として、あるテーマに基づいて行うシンポジウムは有効であり、中国はちょうど改革開放政策を出して、大きく舵を切ろうとしていましたので、時機を得た地方発進の「日中経済シンポジウム」を開催し、県内産業界は中国経済の動向に高い関心を示しました。

1981年：静岡県議会代表団が浙江省を訪問した際に、浙江省から友好提携を承諾する正式返事がありました。

1982年：1982年４月20日、静岡県は浙江省代表団を招いて、県議会議事堂において友好提携調印式を行いました。併せて、友好好提携を記念するイベント『中国浙江省展覧会』（会期４月21日～５月９日、入場者数50万人）がツインメッセ静岡で開催し、好評を博しました。

展示会から見える中国ビジネス

浙江国際輸入商品・海淘匯

静岡県中国駐在員事務所長　浅 原 敏 治

毎年６月、浙江省は寧波で「浙江省貿易商談会」を開催していますが、今回は主に「中東欧諸国展」、「国際消費財（中国からの輸出品）展」、「輸入商品（中国への輸入品）展」の３つの展示会で構成され、約3,000のブースに2,041人の出展者と7,468社のバイヤーが参加しました。輸入商品展・「浙江国際輸入商品・海淘匯」は、越境Eコマースの輸入促進を図ることを目的に開催されました。

「浙江国際輸入商品・海淘匯」は、テーマナショナルパビリオン、ブティック企業エリア、輸入モデルエリア、輸入プラットフォームエリア、国際友好都市エリアで構成され、国レベルではフィンランド、アイスランド、韓国、日本JETRO等、国際友好都市エリアには日本から本県と福井県、ドイツのシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州、ベルギーの西フランダース州等の友好県・州が出展しました。

本県は、観光パンフレットを展示・配布しながら、中国で人気があるアニメちびまる子ちゃんの幼児用食器類と静岡市の企業が製造し、中国に輸出販売されている富士山のミネラルウォーターを展示・紹介しました。本県関連では、本県企業のフットサルシューズの輸入業者DESPORTE（浙江省義烏市）、本県と浙江省に工場がある不二家及び日清食品並びに本県の企業と提携しているキッコーマンの４社が出展し、商品ＰＲが行われました。

平日開催であり、来場者は少ない印象でしたが、それでも本県のブースの富士山や茶畑の写真に目をとめた来場者に、本県の観光パンフレットを配布し、ＰＲすることはでき、また中国政府が重視する博覧会に、友好提携先の浙江省から招待を受け、本県が出展できたことは大変光栄であり、今後もいろいろな場面で本県のPRを行っていきたいと思う機会になりました。

今回、主催者が力を入れていた「中東欧諸国展」には、習近平国家主席から「中東欧産品に対する中国市場の理解増進、中東欧諸国の対中輸出の拡大、各国の新型コロナウイルス感染症による試練の克服と経済回復の促進に寄与する。各国が博覧会を契機に、協力を強められることを希望する」との祝賀メッセージが寄せられていました。

中東欧各国は自国の産物（食品や工芸品等の生活用品）を展示し、ひときわ賑わっていたのはチェコのブースで、国の観光地の写真パネルや、洋酒やガラス工芸品、スキンケア化粧品を百貨店売り場のように点在して展示し、渡航できない中、東欧諸国の雰囲気を楽しめるよう工夫されていました。

《中国Report～世代でみる社会変化～》

寧波の人々－豊かさを享受する老人たち

寧波大学外国語学院外籍教師
静岡県立大学グローバル地域センター客員講師
（静岡県日中友好協議会　交流推進員）
横　井　香　織

中国は広大で人口が多いため、北方と南方、沿海部と内陸部、都市部と農村では、生活スタイルや考え方がかなり異なります。また、世代によって結婚観や働き方、生活の楽しみ方などに違いがあるようです。今年度は、身近な生活のシーンから、寧波の人々の世代間の違いを紹介したいと思います。

【早朝の中山広場で太極拳】

ある休日の昼下がり、散歩がてら寧波の中山広場へ出かけました。広い公園をのんびり散策しようと思いきや、公園に近づくにつれて大きくなる中国語の歌声。なんと、大勢のシニアのみなさんが、大カラオケ大会を開いていたのでした。別の日、寧波市の中心部にある月湖公園へ行くと、ここでも大勢のシニアのみなさんが、歌いながらダンスを楽しんでいました。同じ場所で、早朝には太極拳、日中は囲碁を楽しむ人も少なくありません。

中国では一般的に、女性は55歳、男性は60歳で定年を迎えます。定年後は、朝と夕方は孫の送り迎えなどの世話をしますが、それ以外は自由です。寧波のような都市部に暮らすシニア世代は、経済的にゆとりがあり健康に問題がなければ、趣味や娯楽に時間を費やします。最も人気があるのは、国内や海外への旅行です。若いころは働きづくめでどこへも行かれなかった分、引退後の今は、毎月のようにどこかへ出かけます。中には、寧波から海南島まで、自ら車を運転して１か月半の旅を楽しんだ方もいます。旅行の他に、シニア大学（寧波老年大学）に入学して、関心のある分野を学ぶ人々も多いようです。シニア大学は、引退後のシニア世代だけが入学できる学びの場で、書画芸術、文学言語、声楽、器楽、体育舞踏、医学保健などの分野があります。そこで知り合った人と、食事をしたり旅行に出かけたりと、交流の場はさらに広がっていきます。

【寧波老年大学合唱団（建国70周年記念式典にて）】

70代以上の方々は、戦争、文化大革命、改革開放と、激動の時代を生き抜いてきました。彼らにとって、一番の関心事は自身の健康です。結婚して家族を持つのは当たり前で、子どもや孫に囲まれ、にぎやかに過すことを望んでいます。また、現在の中国の経済発展は彼らの誇りです。シニア世代の人々は、生活に追われていた若いころを取り戻すかのように、健康で豊かな日々を、味わい楽しんでいるのです。

浙江省の非物質文化遺産を巡る旅

浙　派　古　琴

「古琴」は、奈良時代に日本に伝来し、平安時代の貴族や江戸時代の儒者や文人などに愛されました。『源氏物語』に登場する琴も、中国から伝わった、７弦の古琴です。現在、日本で琴、箏と呼ばれる楽器は、13弦で琴台に柱(じ)のある弦楽器で、箏爪をつけて演奏され、伝来の古琴とは異なります。

古琴とは、約3000年の歴史を持つ中国発祥の伝統楽器です。世界で最も古い弦楽器の一つであり、バリエーション豊かな演奏法は、世界無形文化遺産として登録されています。弦は７本、長さは約120㎝の大きさで、琴柱は立てず、左手の指で弦を押さえ、琴爪は付けずに右手で演奏します。古琴は、古来、文人が習得すべき必須の教養「琴棋書画/古琴・棋〈圍棋、囲碁〉・書道・絵画)」の筆頭にあげられ、精神修養の楽器として大切にされ、孔子、李白、白居易など、歴史上著名な多くの文人達も古琴を学んでいます。

古琴の流派は、現代にいたるまでに「虞山派」、「浦城派」、「梅庵派」、「広陵派」など様々な琴派が形成されましたが、その中でも『浙派古琴』は歴史が長く、南宋時代（臨安・現在の杭州に起こった流派です。南宋から明にかけて、100年あまり受け継がれながら変遷と発展を遂げ、古琴芸術の頂点となりましたが、清に入ると徐々に衰退していきました。

【現在の西湖琴社】

しかし、近代に入ってから、「浙派徐門」が『浙派古琴』を復活させ、徐元白から徐匡華、徐君勝・君躍兄弟まで三代100年にわたって受け継がれてきました。徐君勝は1970年代から琴の製作を開始し、現在は湖州市徳清県で工房を開き、古琴の修理や製作を手掛けています。また、弟の徐君躍は、杭州市内で音楽家協会「西湖琴社」を主宰し、作曲、演奏、教育、執筆を通じて『浙派古琴』の発展に尽力しています。

浙派の代表的な伝統曲に「漁歌」、「樵歌」、「瀟湘水雲」、「胡茄十八拍」などがあり、「微、妙、円、通」の音色と、「清、微、淡、遠」の芸術境地を目標とし、上品、静謐、簡潔、洒脱な境地を追求しています。『浙派古琴』は、中国における古琴の重要な流派の一つとして、2008年に国務院が発表した非物質文化遺産の第１次国家級無形文化遺産リストに登録され、現在も継承されています。

非物質文化遺産：中国では「各民族が代々に伝承され、一般庶民の生活と密接に関わっている各種伝統文化の表現形式（例えば民俗活動、演技芸術、伝統知識と技能、及びそれと関連する器具、実物、手作業製品等）と文化空間のことである。」と定義されています。日本の文化財保護法によると、文化財を有形文化財・無形文化財・民俗文化財（有形民俗文化財と無形民俗文化財）・記念物・伝統的建造物群の５つに分類され、中国の「非物質文化遺産」は日本の「無形文化財」と「民俗文化財」の内の「無形民俗文化財」を統合したものに近いといわれています。

ヒストリー・タイムトリップ

中国の四大美女

楊貴妃（719～756）

中国では、歴史上「楊貴妃」、「西施」、「王昭君」、「貂蝉」が四大美女といわれています。

楊貴妃（719～756）は、唐代の玄宗皇帝の妃で、蜀の国（現在の四川省）の地方役人をしていた楊家に生まれ、もともとの名は玉環といいます。十代で親を亡くし、叔父に引き取られて育ちます。735年（開元23）、玄宗の息子の妃として迎えられましたが、玄宗は楊玉環の容姿に一目惚れし、夫の母武恵妃の死後、玄宗の求めで女冠となり太真の号を授かり、4年後正式に後宮に入り、翌年『貴妃』となりました。『貴妃』とは、中国の後宮の中での地位で、トップである皇后の次に位の高い地位です。

==========

日本で広く知られる、白居易の長編漢詩『長恨歌』は、悲劇の美女をうたったものです。長恨歌に登場する漢の皇帝は玄宗皇帝、皇帝から寵愛を受けた楊家の娘は、楊貴妃がモデルとなっています。

長恨歌にある『温泉水滑洗凝脂　雲鬢花顔　花貌　芙蓉如面柳如眉』（温泉の水がなめらかに凝脂を洗う/ふんわりとした髪の生え際/芙蓉の花のような顔立ち/柳のようなほっそりとした眉）と、楊貴妃の美しさをうたっています。また、登場する楊家の娘が漢の皇帝から賜ったという『華清池の温泉』は実在し、西安の観光スポットとなっています。

楊貴妃が庭を散歩すると、あたりの花々が彼女の美貌と芳香に気圧され、しぼんでしまったという伝承が「羞花美人」（花も恥じらう美女）といわれる由来となっています。

美しさだけでなく、才知があり琵琶や笛、磬（けい）などの楽器や踊りにも長けていたことでも知られています。玄宗の寵愛を一身に受け、一族はみな高官に上り、又従兄弟の楊国忠は、宰相として権力をふるっていました。しかし、権勢をほしいままにしていたので恨みを受け、安禄山が乱を起こすと、玄宗と楊貴妃は共に蜀に逃れようとしましたが、途中で軍隊の反抗にあい、兵士の殺害要求により、玄宗はやむなく楊貴妃に自殺を命じました。

楊貴妃は、その艶麗さ、玄宗との交情、栄枯の激しさなど、同時代からすでに文学作品の題材となることが多く、白居易の『長恨歌』、陳鴻の『長恨歌伝』をはじめとして、詩歌、戯曲、小説、随筆に数えきれないほどの作品が書かれています。

発行所：静岡県日中友好協議会　　静岡市葵区追手町44－1（静岡県産業経済会館１F）
発行人：栗　原　　績　　ＴＥＬ（054）255－8111